

書評

泉 孝英・中山昌彦・西村浩一 編

医療者のための喘息と COPD の知識

医療法人千藤了会理事長・院長

久保田 公 宣

まずもって序から読んでほしい。喘息と COPD の歴史、特にここ 20 年来の診断、治療の目覚ましい進歩が泉先生の自説とともに実に明快に書かれている。また歴史的発掘に記述されていることは、専門家にとっては知識の整理、呼吸器科以外の先生、コ・メディカルにとっても、現在の治療に関わるうえで大変役立つと思う。

本書は、疾患の一般的知識はもちろんであるが、医療経済学から功労者の紹介に至るまで実に多彩な内容で、読者を飽きさせない。泉先生の真骨頂である。私も『日本の研究者』で、20 年来直接的間接的に関わってきた先生方を懐かしい思いで読んだ。

本文は Q&A 方式で、かつ一項

目が 1-3 ページと短く簡潔に書かれているので、従来の本のように最初の病態生理あたりで挫折してしまう事は避けられる。診療している時、疑問に思った事を Q&A の項目から探してそこだけ見るとこのような診療マニュアル、辞書的な活用方法も出来るし、むしろ教科書的に、最初から最後まで読破することは、望ましい事ではある。

この本の特徴は、特に実際の診療、治療に即したマニュアルである点だ。例えば COPD の診断方法では、「労作時息切れが存在し、十分な喫煙歴があれば、簡易肺機能検査を実施し、一秒量が低下(70%以下)していれば COPD と診断できる」と実に明快に書かれてあるし、喘息の長期管理の項目

では、「症状悪化発作時の受診時は経口ブレドニン 20-40 mg/日を 3-5 日間投与し……、吸入ステロイドの導入量は開始当初から比較的大量を用いたほうが効果的であり……、ガイドラインが示した吸入量は、治療を開始する場合の必要最小量を示していると考えられるほうが理解しやすい」と言うように、専門家が実地医療で経験を重ねたうえでなくては言えない、『コツのコツ』が詰まっている。ステロイドの吸入療法の実際には吸入の仕方やスパーサーの使い方はもちろんであるが、剤形や噴霧器の構造まで詳しく記述され、薬剤師や看護師に大変参考になる。

蛇足ではあるが、この内容で本の値段が 3,800 円と格安であるのは驚かせられた。ここにも泉先生の喘息と COPD の知識の普及に対する並々ならぬ意欲を感じた。お勧めの一冊である。

〔B5 頁 288 2007 年 定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%) 医学書院刊〕